

『基本法則から読み解く 物理学最前線』（共立出版）シリーズ刊行記念トークセッション
物理かふえ 著者と語る物理の楽しさ#1 ～スピンってなに？～ イベントレポート

写真・文責：村上研秘書T



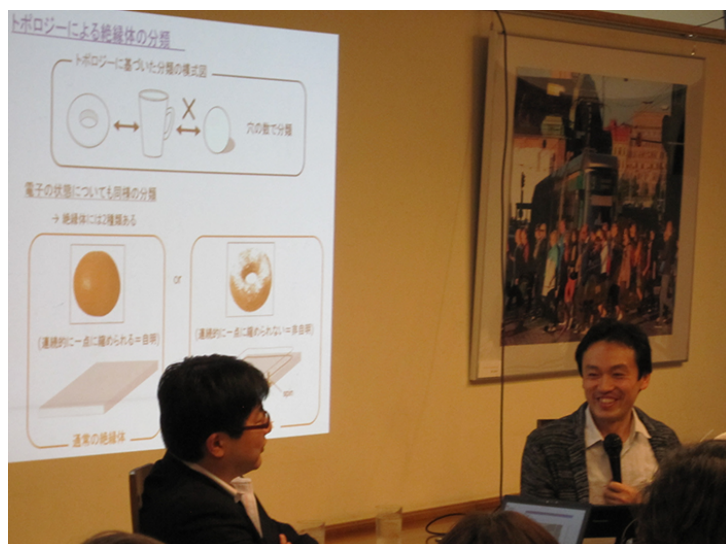
2014年5月13日（火）19:30より、
ジュンク堂書店 池袋本店にて開催されました。

初めての試みに、「どんな人が来るのかな。緊張する」と心配していた村上先生ですが…いざ蓋を開けてみたら一般の方が多く、しかも約半数が文系ということでした。女性率も高かったです！

まずは東北大学の齋藤先生から。

「スピン」について、音楽と物理の共通点から説明が始まりました。私のような門外漢にもわかりやすい、可愛い（失礼）スライドでした！

「スピンはみなさんの身近にあるんですよ。冷蔵庫のマグネットとか、MRI-CT装置とか。」そうなんだ～「スピンは一方方向に回り続けるので、熱電よりも使いやすいんです。」ほうほう…なるほど…



次に我らが村上先生。

固体中の電子のふるまいについて、齋藤先生のお話を発展させたかたちでお話がすすみます。

「スピンホール効果によって、例えばごちゃまぜだった白ごまと黒ごまが、白群と黒群に分離できるわけです。」皆さん真剣に聞き入っていて、スライドを熱心に写真に収めている方もちらほらいらっしゃいました。



前半終了後、質疑応答タイムをはさんで後半へ。
休憩中にも質問が飛び、なかなかの盛り上がりでした。

後半は、先生方の研究生活についてのマル秘？トークです。
写真は、齋藤研の研究環境紹介画像。実験系は高価そうな実験器具や大型マシンが大変画になるので、理論系に所属する者としてはうらやましい限りです！
理論系はノートと鉛筆が最小にして最大の武器ですからね。
あとパソコン。

「これぞ、いわゆる『研究室』！」という写真の後で、
村上先生は一体どんな画像を…と若干ドキドキしながら
見ていると…
「これは今朝撮った私の研究室ですが…」
あっ、微妙に片づけてある！
しかし…うん、普通の部屋だ！（笑）

次に映ったのは Physical Review 誌の掲載論文でした。
なるほど、その手があったか。
研究のアイデアが1本の論文になるまでの流れを、
フローチャートで詳しく説明していく先生。



大学教員というお仕事や、研究者になってよかったこと・大変なことなど、割と突っ込んだ内容に、皆さん興味津々といった様子。

「推理小説の完全犯罪のような実験装置を作っても、95%は失敗する。でも、成功したら大発見になる」という齋藤先生の言葉が印象的でした。

ちなみにこの本は、大部分がスウェーデンで書かれたそうです。国際会議の合間に、なんとか時間をつくって議論したとか…

この後、私は途中退席したのですが、村上先生に聞いたところ、なんとサイン会が行われたそうです！
写真を撮れなかったのが残念ですが、後日動画サイトにアップされる予定だそうなので、乞うご期待ですね！

齋藤先生、村上先生、スタッフの皆様、お疲れ様でした！

